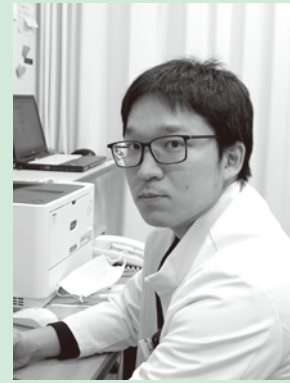


私のカルテ

No. 3 9 5

たい
大腿骨近位部骨折(大腿骨転子部骨折、
けい
大腿骨頸部骨折)について

津島市民病院
整形外科医師河邊
貴

今回は高齢化の日本で件数の多い大腿骨近位部骨折(転子部骨折、頸部骨折)について紹介したいと思います。

大腿骨近位部骨折は2007年の調査では年間約148,100人が受傷しています。今後高齢化の流れを受けて増加すると考えられています。

この骨折の怖いところは、適切な治療を行ってもすべての患者が、受傷前の日常活動レベルに復帰できるわけではなく、術前歩行できていた方が、骨折を契機に車いす中心の生活になってしまうことがあります。また活動性の低下によって、体力の低下(廃用)が進み、肺炎、褥瘡、その他併存疾患の増悪を招くことがあります。またこの骨折の1年以内の死亡率は日本では9.8~10.8%と言われており、生命予後に関連した骨折です。

当院では上記骨折に対して、活動性の低下を防ぐために、診断がつき次第、可能な限り早く手術し、早期からリハビリテーションを開始できるよう治療をしております。

大腿骨転子部骨折に対しては多くの症例は髄内釘といった骨髄のなかに支柱となる金属を挿入し、スクリューで骨片同士をつなぎ合わせる手術を行います。大腿骨頸部骨折には、骨折の種類によって治療方針は変わりますが、骨片のずれ(転位)が少ない骨折に対してはスクリューで骨片をつなぎ合わせる手術を行い、ずれの大きい骨折に対しては金属で骨の一部を置換する人工骨頭置換術と呼ばれる手術を行います。

多くの場合は、骨折の不安定性などがなければ、痛みに応じて、術後数日から車いすに乗ったり、歩行訓練を行っていきます。

ここまで入院してからの一連の流れについて説明させていただきました。しかし、この骨折を予防することが大切であると考え、今回はできる範囲の予防方法を紹介

したいと思います。

転倒を予防する

大腿骨近位部骨折はしりもちをついたり、足がもつれて転倒することで受傷することが多く、転倒しないことが大事です。

転倒予防には、「開眼片脚立ち」と「スクワット」といった下半身の筋力維持が推奨されています。

また白内障といった疾患を持っている方では目が見えづらくなり転倒することも多く、定期的に眼科を受診し治療する必要もあります。

高齢の方だと、内服薬が多く、薬の副作用でめまい、ふらつきがあり転倒する方もいらっしゃいます。一度内服薬の調整を主治医とご相談ください。

こつ そしょうしょう
骨粗鬆症を治療する

大腿骨近位部骨折は骨粗鬆症を持つ高齢者に多いです。骨粗鬆症は問診や骨密度検査で多くは診断でき、内服薬による治療を開始します。

現在骨粗鬆症治療薬は種類が多く、服用するタイミングも毎日内服するものや、年に1回の点滴で済むものなど様々です。患者1人ひとりの背景に考慮し、適した治療薬を使用します。

病院で働いていると、大腿骨近位部骨折の患者を多く見ます。件数が増加傾向であるがゆえに、転倒予防し、骨折をしにくい身体を整えることが健康への近道といえます。

また上記対策は大腿骨近位部骨折のみならず、そのほかの骨折予防にも通じますので、できる範囲で骨折の予防に取り組みましょう。